

若手・女性研究者奨励金にご支援を賜りました
寄付企業法人や寄付者の皆様へ



受賞者から御礼の言葉

2021年度（第4回）女性研究者奨励金 受賞者

金 京室

北海道文教大学 人間科学部 作業療法学科 講師

〔研究課題名〕

青色光へ曝露によるワーキングメモリ機能向上効果の検証

－脳磁図（MEG）による解明－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

研究費をご支援いただきありがとうございました。おかげ様で、昨年度において研究データ計測を無事にすすめることができました。進捗状況は少し遅れ気味ではありますが、これからも粘り強く研究を進めて行きたいと思っております。

今回の研究のように研究装置の使用費がかなり必要な研究をする際に、こういった研究費の支援があったおかげで、ここまでの成果を得ることができたと思っております。現時点では、データ数が不十分なため、これからもデータ数を増やし、ここで得られた成果をしっかりと社会に発表していきたいと思っております。さらに、今回の研究からたくさんの課題が見えてきました。これからもそういった課題に取り組んで社会に還元できるように頑張っていきたいと思います。

この度は、ご支援いただき、誠にありがとうございました。

宮田 恵理

足利大学 工学部 助教

〔研究課題名〕

有機半導体放射線検出器の実用化に向けた研究

寄付者の皆様へ〔御礼〕

2021年度女性研究者奨励金に採択いただき心より感謝申し上げます。

研究を継続するために装置を新たに購入する必要があったため、本奨学金をいただいて物品を購入し、研究室の整備を行うことができました。また、本奨励金のご支援を受けたことで、新たな研究費を獲得するチャンスをいただきました。

今後も本研究を継続して行い、研究成果を国内外の学会発表および論文執筆することで社会に貢献していきたいと思っております。

牧原 由紀子

国際医療福祉大学 成田保健医療学部 理学療法学科 講師

〔研究課題名〕

産後女性における産後疲労の客観的評価法の開発

－産後疲労の改善による産後うつ病発症予防法の開発－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

産後女性の健康問題は我が国の将来を左右する重要な案件であり、社会全体で考えていく必要があります。本研究のテーマとして取り上げた産後疲労は、産後うつとの関連が示されているにも関わらずその改善に向けた積極的なアプローチが検討されておらず、大きな課題となっています。この課題解決のために立案した研究計画を、女性研究者奨励金によってご支援いただき、実現に向けて一步を踏み出すことができました。研究に参加していただいた産後女性からも、多くの応援メッセージをいただき、研究を遂行していくことの意義を感じることができました。今後も真摯に課題と向き合い、エビデンスを積み重ねていくことが一番の恩返しであると感じております。

本研究の意義をご理解いただき、その遂行をご支援いただきました日本私立学校振興・共済事業団および関係各位に心より御礼申し上げます。

浅見 瑠璃

明海大学 歯学部 助教

〔研究課題名〕

加齢による歯の組成の生学的変化を利用した年齢推定法の開発

寄付者の皆様へ〔御礼〕

2021年度女性研究者奨励金に採択いただき感謝申し上げます。

本奨励金により、象牙質コラーゲン中に蓄積するAGEsのうち、エナメル象牙境に隣接する象牙質と、歯髓腔に隣接する象牙質におけるAGEs蓄積の比較をしたところ、新しい知見が得られました。

本研究の遂行にご支援いただきました、日本私立学校振興・共済事業団とその関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

石井 慶子

青山学院大学 理工学部 助教

〔研究課題名〕

微小領域の3次元温度速度同時計測法の開発

寄付者の皆様へ〔御礼〕

ご支援のおかげで、必要でありながら手が出にくかった試薬を購入することができ、本手法の有効性を示すことができました。

藤田 友香

桜美林大学 航空・マネジメント学群 助教

〔研究課題名〕

静岡空港の低層ウインドシアの発生メカニズムとその予報について

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は多大なご支援を頂き、改めて心より御礼申し上げます。

研究者になって初めて取り組んだ研究に対し、このような貴重な機会を頂きましたことは非常に心強く感じました。ご支援頂いたことで、研究設備を整えることや観測に複数回行くことが可能になり、積極的に研究に取り組めました。1年間で解明できた結果はまだ一部ではありますが、明らかになったことや新たな課題を見つけることができたため、継続してこのテーマを掘り下げ、最終的には実用的な予報を作成したいと考えています。

今後も航空気象の研究に取り組むことや、航空業界に進む学生たちに研究を通して得た知識などを伝えることで、航空業界に少しでも貢献できるよう尽力致します。

大城戸 真喜子

東京慈恵会医科大学 分子生物学 助教

〔研究課題名〕

誤嚥性肺炎へのポリアミン吸入投与による呼吸機能改善効果の検証

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は、2021年度女性研究者奨励金を交付していただき、本研究をご支援いただいた日本私立学校振興・共済事業団ならびに関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

本研究では、ARDSの原疾患として頻度の高い誤嚥性肺炎に着目することで、実際の病態に近づけた解析や検証を行うことができました。特に本研究で試みた超音波ネブライザーを用いた誤嚥早期からのポリアミン吸入投与に、ARDSへの進行を抑制する可能性を見いだすことができました。将来的に生み出される可能性として、誤嚥に気づき、発症早期からポリアミンの吸入を開始できれば、誤嚥性肺炎から致死率の高いARDSへの進行を防ぎ、国内年間約4万人の誤嚥性肺炎患者死亡者数を減らせることに貢献できると推察されます。実用化に向けた応用研究に結びつけることができるよう、日々研鑽を積んでまいります。

ご支援賜りありがとうございました。

船越 智子

順天堂大学 医学部 特任助教

〔研究課題名〕

オートファジー活性を制御する代謝物の検索と制御機構の解明

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究課題に対して助成いただきましてありがとうございました。

予想通り、予定通りに研究は進みません。壁の前で右往左往している時間がほとんどかもしれません。

このようなご支援をいただき、大きな励みとなりました。重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。

佐々木 由香

昭和大学 薬学部 社会健康薬学講座 衛生薬学部門 助教

〔研究課題名〕

プロスタグランジンE合成酵素の乳がんにおける役割の解明
－mPGES-1は乳がん治療の標的となりうるか－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は本研究の支援をしていただき、誠にありがとうございます。

本奨励金により、乳がんの標的としてのmPGES-1の可能性についての研究を始めることができました。

本研究が乳がん治療の進歩に少しでも貢献できるよう今回の結果をもとに、研究をさらに発展させていきたいと考えております。

豊村 かなみ

白百合女子大学 人間総合学部 助教

〔研究課題名〕

日本語を母語とする幼児の格助詞「が」と「を」の理解と使用

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究を引き続き継続し研究結果の知見を更に深め、言語発達についての研究を蓄積していくことによって、幼児の発達支援といった臨床実践にも還元していきたいと考えております。また、幼児の言語発達の面白さについて、学生や広く一般に伝えていきたいと思っております。

この度は女性研究者奨励金を頂きまして心より感謝申し上げます。今回の奨励金をいただいたことで、モチベーションにつながり研究を途中で断念する事なく継続することができました。

今後も、引き続き研究活動を途切れさせることなく精進したいと思っております。

菅谷 麻衣

拓殖大学 政経学部 助教

〔研究課題名〕

差別表現規制による平等の実現

－アメリカ憲法学を参照して探る－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究にご支援をいただきました日本私立学校振興・共済事業団及び支援者の皆様に深く感謝申し上げます。

Covid-19の世界的流行による海外渡航の制限が続く中で、本研究も当初の計画通りに遂行できない点もありましたが、2021年度女性研究者奨励金に採択いただいたことが物心両面での大きな支えとなりました。とりわけ、書類審査時に選考委員の方々からいただいたコメントによって、本研究の意義や発展性を再確認することができ、研究を遂行する上でのモチベーションとなりました。

未だCovid-19の収束が見通せず、女性研究者・若手研究者にとって、これまで以上に厳しい状況ではありますが、本奨励金によって、研究を継続することができる研究者も少なくなかろうと拝察いたします。こうした意義あるご支援により、後進の研究者が益々活躍されることを心より願っております。

鬼沢 あゆみ

中央大学 理工学部 助教

〔研究課題名〕

氷河融解を引き起こすラン藻の繁殖能と氷河汚れ物質形成能の評価

寄付者の皆様へ〔御礼〕

私が研究テーマにしている「地球と光合成微生物のかかわり」は対象のサイズ感がまったく異なるものを並列表記していますし、大テーマにおける小テーマという位置づけに受け取られたり、実験手法的には大型の高額機器を使っているわけでもなく、地味に見えたりすることもあるかもしれません。なかなか採択される機会に恵まれないなかで、このようなご支援を承りましたことに大変感謝しております。

皆さまの日常生活のなかには、地球温暖化、SDGs、脱プラスチックなどの言葉や文字を耳にしたり目にしたりする機会があふれていると思います。その一方で、実際、地球規模の温暖化により、具体的に「何」が「どれだけ」「どのような」影響を受けているかは必ずしも明らかになっているとは限りません。もちろん、問題解決のための対策を練るために、その詳細な研究結果を待っている必要はありません。しかし今後その対策が功を奏して、また新たなフェーズになったとき、どう地球が、私たちの生活が変わっていくか『予測』し、より良い世界を想像するには、これまでの地球と生物の関わり合い、今、どう生きているかをつぶさに調べていくのが重要だと考えています。

浅岡 真理子

東京医科大学 医学部 助教

〔研究課題名〕

乳癌腫瘍内APOBEC3発現と抗腫瘍免疫応答との関連性の検討

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は、2021年度 女性研究者奨励金を賜りました事、深く御礼申し上げます。

乳癌は女性の悪性腫瘍として日本では最も患者数が多く、また世界では女性の悪性腫瘍による死亡原因の第一位ではありますが、近年のめまぐるしい治療薬の開発により、乳癌の治療成績は飛躍的に向上しております。

今後、更なる治療の発展に貢献できることを目指し、乳癌に関する研究を重ね努力して参ります。

小笠原 知子

東京女子医科大学 医学部 助教

〔研究課題名〕

COVID-19医療が看護師に与える長期的な精神心理的影響

寄付者の皆様へ〔御礼〕

COVID-19というパンデミックという社会の中で不安が増大する事態が生じた中で、このような感染暴露がどのような長期的・経時的心理的負荷を与えるのかを研究することは、貴重な機会である。2019年にWHOが「国際疾病分類」の最新版（ICD-11）に「燃え尽き症候群」を盛り込むと声明を出し、概念の理解と対策の重要性はより認知されてきている。長期的な心理的負荷では、飲酒などの嗜癖が取り上げられることが少なくないが、燃え尽きもそれに並ぶ重要性があると考えられる。

その燃え尽きの調査において、燃え尽き尺度MBIは燃え尽き尺度として研究では欠かせない指標となっている。しかし、無償提供されるものではなく、著作権がある。燃え尽き度の長期的変遷を追うことは、着想としてはあったものの、研究費用の捻出が課題であった。

今回このような機会を得て、調査にMBIを使用した調査を可能にして頂いたことで、この研究が可能となった。

支援者の方には大変ありがたく感謝している。

高木 優香

東京理科大学 理工学部 電気電子情報工学科 助教

〔研究課題名〕

ビスマスベース非鉛圧電セラミックスのクエンチ効果と構造相転移
ークエンチ効果とオーダー・ディスオーダー構造における相関の解明ー

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は研究を遂行するための奨励金を支援頂きまして、大変ありがとうございました。

奨励金を頂いたことにより、これまでよりも自由かつ多数の実験やチャレンジに取り組むことが出来、より一層前向きに研究に取り組むことが出来ました。その結果、学会発表や論文の出版につながる成果を得ることができ、女性研究者として社会に向けてアクティブに働きかけることができたことを大変うれしく感じております。

今後とも、女性研究者として活躍する努力を継続し、私よりも若い世代、特に女性研究者を増やすことができるよう精進したく存じます。その中で、電気・電子材料という自身の専門分野において、より良い社会に繋がる研究を進められるよう励んで参ります。

松村 沙衣子

東邦大学 医学部 助教

〔研究課題名〕

小児の近視における屋外時間と青色レーザー自家蛍光の関連
－新たなバイオマーカーを用いた屋外時間の評価法－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

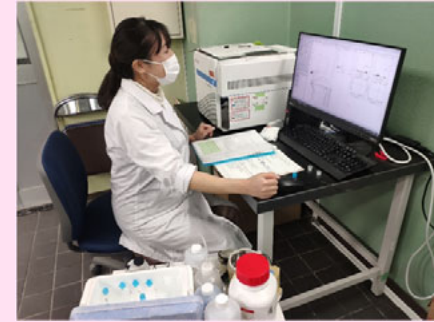
今回頂いた研究助成により、目標としている近視研究や治療の発展に向けての一步を進めることが出来ました。特に研究環境のセットアップや研究での健常ボランティアのリクルートにおいては、貴事業団からの研究助成が大きな助けになりました。重ね重ね、御礼申し上げます。

最後に、まだ基礎的な段階にある本研究についてご支援いただき、評価していただいたことを大変有難く思います。今後も、今回の研究助成を励みに、一層研究に邁進する所存です。

関係者の皆さまに心から御礼申し上げますとともに、貴事業団の益々のご発展をお祈り申し上げます。

前田 まりか

日本獣医生命科学大学 獣医学部 ポストドクター



〔研究課題名〕

牛ヘルペスウイルス4型蛋白質による宿主蛋白質分解機構の解明

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は本研究をご支援いただき、誠にありがとうございました。本研究へのご理解、ご期待いただきましたこと、奨励金を賜りましたことに心より感謝申し上げます。

私はこれまで産業動物の診療現場で働く中で、生産農家の方々が直面する問題を一緒に解決していきたいと常に感じていました。フィールドを研究に移した現在でも、その志は変わりません。

研究の道を歩み始めてまだ日が浅く、出産・育児というライフイベントを挟んでの挑戦でしたが、本奨励金のご支援により研究を進めることができました。これからも畜産現場のニーズに即した研究で少しでも現場に還元できるよう、研究活動に邁進していきたいと存じます。

今後も若手・女性研究者の活躍のためご支援を頂きますようお願い申し上げます。

渡會 侑子

日本歯科大学 新潟生命歯学部 助教

〔研究課題名〕

義歯製作における咬合採得のデジタル応用の検討



寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究に対し、ご支援いただきましてありがとうございました。

本奨励金をいただき、統計ソフト(IBM SPSS 28.0, SPSS JAPAN, Japan)、また研究に必要な器具備品を購入することができ、円滑に研究を遂行できました。本研究は、義歯製作過程である咬合採得のデジタル応用について高齢者を被験者として研究を行いました。実際の患者を被験者とすることで、高齢者のデータを取得することができ、今後、咬合採得のフルデジタル化に対応できる可能性を感じております。ひいては、患者の負担が少なく義歯が製作できるよう、今後も研究を継続していきたいと考えております。心より感謝申し上げます。

永瀬 翠

東京工科大学 応用生物学部 助教

〔研究課題名〕

生死を分ける新たなファクター

－遊離コレステロール/コレステロールエステル比と酸化ストレス－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究課題の意義をご理解いただき、2021年度女性研究者奨励金に採択していただきましたこと、また、奨励金のために寄付していただいた支援者の皆様に感謝申し上げます。

この奨励金は、学位を取得してから初めて採択されたこともあり、研究者としてのキャリアの大きな一歩になったと思っております。今回ご支援いただきました奨励金により、これまで資金の関係で着手できずにいた研究を始めることができました。研究を始められたことで、新たな課題なども明らかにすることができ、今度も研究を進め、社会に還元できるよう努めてまいります。

今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

佐藤 雅子

聖徳大学 人間栄養学部 人間栄養学科 講師

〔研究課題名〕

「味わう」力が献立作成に与える影響に関する基礎研究

－自己の感覚に向き合い思考する小学校家庭科の献立学習を通して－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

今回この助成を頂いたおかげで、改めて日本における献立学習の重要性を確認するとともに、検定教科書の献立の記載内容を問い直し、聖徳大学児童学研究所紀要第24号に「小学校家庭科教科書にみる献立学習についての一考察－2005年、2012年、2015年、2020年発行教科書の記載内容の比較分析を通して－」を投稿することができました。

また日本家庭科教育学会第65回研究大会にて本研究の一部を発表することができました。

さらに、フランスにおける味覚教育の重要性を調査し、五感を活用して食べるモノや食べるコトに向き合う価値について捉え直すことができました。

今後、日本の食文化の継承・創造に関連する献立学習の在り方を更に追究し、児童生徒が自身の心身の健康を豊かにできるように食教育の在り方を追究し、それを広めることで恩返しをして参ります。本当にありがとうございました。

関根 千恵

新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 助教

〔研究課題名〕

仙腸関節性腰痛に対する新規運動療法の開発
－体幹筋機能に着目して－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究の遂行に際して、ご支援いただきました日本私立学校振興・共済事業団およびご寄付いただきました企業の皆様に感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響により、実験が行えない時期があり、研究の進行が大幅に遅れてしまいましたが、今後も測定・解析を続け、本研究成果を学術論文として、広く世に公表できるよう努めたいと思います。そして、本研究成果が、仙腸関節障害の運動療法考案につながる一助となれば嬉しく思っております。

佐藤 佳織

修紅短期大学 食物栄養学科 助教

〔研究課題名〕

箸の持ち方の習慣形成因子検索と良い持ち方の効果的指導法の確立

— 幼児を含む若年層世代の箸の持ち方の実態と好ましい持ち方の普及 —

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究を通し、箸は幼児から大人まで共通した身近な道具であることから、世代間交流の場でも生かせる食育となると感じた。今後は、高齢者、壮年層の箸の持ち方の実態を調査したいと考えている。高齢者等が箸の持ち方が正しいという割合が高いという結果が出れば、なぜそうであったかを解明することで、若年層への今後の指導法への示唆が得られると想定できるため、対象範囲を広げていくことを考える。日本の箸の文化の継承に貢献していきたい。

新型コロナウイルス感染症のまん延により研究計画の変更を余儀なくされ、アンケート調査という形にはなりましたが、今回のご支援により対象を広げることができ、学生のみならず幼児および児童の実態把握をすることができました。

現在はインターネット上の情報がスマートフォンなどを通して拡散している時代です。情報が多くの人々に共有され、社会的な力になるときに、箸の持ち方、茶碗の持ち方などを好ましい形で伝えるということは、小さいことながらも、失ってはならない日本人の端正さを伝える一端となると考えます。日本の食文化を守り発展させることのために研究を継続していきたいです。

本研究の遂行にご支援を頂きました日本私立学校振興・共済事業団と関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

信太 寿理

中京学院大学短期大学部 保育科 専任講師

〔研究課題名〕

不妊治療経験に関する産後の意味づけと影響

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究では、2回のweb調査を通して、不妊治療を経験した母親たちが肯定的・否定的なさまざまな感情を抱きながらも、子育てしていることが示された。また、不妊治療の期間によって、その意味づけの度合いが変わってくることも示された。

今後は、より縦断的な視点から、出産後からどのようなプロセスを経て、不妊治療を意味づけながら子育てをしているのかについて検討を行いたいと考えている。また、支援という方向性からも研究を行いたいと考えている。前述のように、不妊治療自体も非常にストレスフルであるにも関わらず、多くの場合そのまま出産、子育てというストレスフルな状況が継続していくため、何らかの支援を行うことで、ストレスが緩和されるのではないかと考える。

上記のようなことから、今後はさらに研究を進めていきたいと考えている。

この調査にご協力いただきました方々、ならびに日本私立学校振興・共済事業団の関係者の皆様に深くお礼を申し上げます。なかなか個人の力だけでは実施することができなかった大規模なweb調査を行うことができました。本当にありがとうございました。

この調査は、あくまでもスタート地点であると思っております。これからも不妊治療を経験したお母さんたちが、いきいきと子育てができるようなお手伝いができるような研究を行っていききたいと思っております。

廣瀬 愛

金城学院大学 生活環境学部 食環境栄養学科 助教

〔研究課題名〕

ATPふき取り検査法を用いたメラミン製食器の洗浄方法の検討

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究は、「食器の衛生」に着目し、多くの給食施設で使用されていると考えられるメラミン製食器の洗浄方法の検討を行いました。こうした新しいテーマを採用していただき感謝しております。

本研究で得られた知見を基盤とし、実際の給食施設現場の衛生に関する問題の解決に向けて、さらに研究活動に邁進していきたいです。また、これまでの研究成果が得られたことは、本事業支援者の皆様をはじめ、給食経営管理分野の研究を数多く手がけてこられた先生方のご指導があったためだと感じております。

今後も真摯に研究活動に取り組み、給食経営管理分野の研究から社会貢献できるよう尽力したいと思います。

沖川 沙佑美

藤田医科大学 精神・神経病態解明センター 助教

〔研究課題名〕

細胞種特異的な胎児性アルコールスペクトラム障害発症機序の解明

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究内容にご支援いただきました日本私立学校振興・共済事業団の関係者の皆様、また奨励金をご寄付いただきました皆様に、心よりお礼申し上げます。

作製に成功したFASDモデルマウスをもとに、さらなる解析を進めることで、FASD発症機序の解明、脳機能障害の根底にある詳細なメカニズムを明らかにできると考えております。FASDの実態は不明点が多く、未だ有効な治療法も確立されておられません。それだけでなく、このことはFASDの認知度の低さに繋がり、予防の障害となっております。本研究の達成によりFASDの発症機序を明らかにし、新たな治療戦略提示の一助を担うとともに、発達障害の新規研究法の開拓に繋がりたいと考えております。

引き続きご支援のほど、何卒よろしくお願い致します。

鳥羽 裕恵

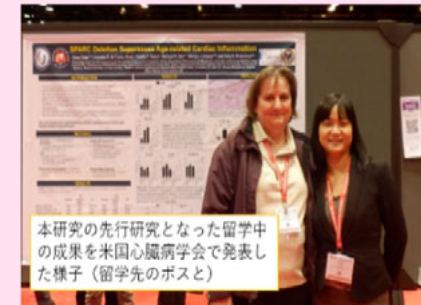
京都薬科大学 薬学部 助教

〔研究課題名〕

動脈硬化治療薬開発を目指した細胞外マトリックス研究

－動脈硬化治療ターゲットとしてのSPARCの有用性について－

寄付者の皆様へ〔御礼〕



本研究の先行研究となった留学中の成果を米国心臓病学会で発表した様子（留学先のポスト）

女性研究者として私自身が活躍しロールモデルとなることで、次世代の研究者とくに女性研究者育成に貢献することが最大の夢です。留学経験を生かした国際共同研究、活発な学会活動による国内研究者とのコネクションの拡大により、当該研究を含め現在行っている研究をさらに発展させ、継続した外部資金の獲得と論文発表を実現できる研究者を目指します。それらの業績をもって近い将来、プロモーションの実現とPrincipal Investigator (PI)として研究室をオーガナイズできる立場となれるよう努力を続けていく所存です。大学院では国内留学、2013年からは米国留学で学んだ経験から、それぞれのPIの良い所を参考にし、研究室員を上手く纏めることができ、研究者としても人としても尊敬されるよう、自ら率先して学ぶ姿勢を見せ、協調性を重んじるPIとなることを目標としています。特に米国留学時に、non-MDの女性研究者として医療系研究を行い、多国籍の研究員をチームとして纏めるボスの姿を目の当たりにした経験は、上記の夢実現の大きな糧となると確信しています。

本研究の一部は日本私立学校振興・共済事業団 女性研究者奨励金のご給付によるものです。ご支援いただきましたことを、ここに厚く御礼申し上げます。

奨励金の獲得そのものが、研究者としての大きな業績であるとともに、本奨励金で遂行できました研究成果は、論文として発表することができ、将来のプロモーションへの大きな後押しとなりました。また、本研究中に他施設との新たなコネクション樹立と共同研究の実現、さらにSPARCリコンビナントプロテイン提供と作製技術習得の機会を得ることができ、今後の研究の発展に繋げることができました。とりわけ、女性研究者として皆様から応援していただいているという自信となりましたことを、心より感謝申し上げます。

動脈硬化性疾患は日本人の死因2位であるとともに、脳梗塞を含めた脳卒中が寝たきりの原因であることを考慮しますと、本研究は将来、平均寿命だけでなく健康寿命の延長と社会問題である我が国の医療費削減に貢献するものと考えております。

今回のご支援を糧に、次世代の女性研究者の育成と医療の発展に貢献致します。

白子 紗希

立命館大学 生命科学部 助教

〔研究課題名〕

“新規ロイシン誘導體”が秘める生理機能の解明に向けた基礎研究

寄付者の皆様へ〔御礼〕

私は学生時に所属した研究室で、ピログルタミンペプチドの研究を始めました。研究者としてだけでなく、温かさ溢れる人柄にも憧れ、尊敬している恩師にご指導いただいたことをきっかけに、自身も教員としての一歩を歩み始めたところです。

まだまだ経験の浅い研究者ですが、研究の面白さや楽しさを伝えることのできる教員になることを目標にしています。研究者としては、食品科学や機能性の研究を通じて、「食」で多くの人々の健康に貢献したいと考えています。これからも幅広く視野を広げ、誠実さ・素直さを忘れずに、研究に対して真摯に取り組んでいきたいと思っています。

本奨励金は、私にとってはじめて採択いただくことのできた奨励金でした。採択が決定したときは、研究について興味を持っていただけたことに大変感激したことを覚えております。学生のころから取り組んできたペプチドの研究について、このように奨励金をいただきましたことは、私の自信につながり大きな励みとなりました。ご支援いただいた企業の方、皆様に心より御礼申し上げます。

私が研究しているピログルタミンペプチドは、味噌や日本酒をはじめ、日本食に使われる発酵食品に見出されています。今後ピログルタミンペプチドの研究が発展することで、将来的には日本食の科学的な価値を高めることに役立てたいと考えております。助成していただいた感謝の気持ちを忘れずに、これからも引き続き日々、ペプチドの研究に精進してまいります。この度は、ご支援いただきましてありがとうございます。

手島 弘恵

佛教大学 保健医療技術学部 看護学科 助教

〔研究課題名〕

摂食障害の子を持つ親の支援に向けた研究

－分類と発病期間の変化に着目して－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

初めて質的研究に取り組み、データ収集やデータ分析における基礎的な方法を学びました。今後は臨床で摂食障害の治療に携わってきたことを活かしながら、摂食障害の治療や、患者家族の支援のために出来ることを一つずつ考え実践していきたいと考えています。

申請の際には研究実績のない私には難しいかと思っていましたので、採択された時には非常に嬉しかったです。奨励金は交通費などの調査費用と分析用ソフト等に使用しました。

今後も私のような若手、あるいは女性研究者への支援を何卒宜しくお願い致します。

勝山 あづさ

大阪医科薬科大学 看護学部 看護学科 助教

〔研究課題名〕

ICU早期リハビリテーション実施に向けた教育プログラムの開発



寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究実施にあたって、多大なるご支援を賜りました日本私立学校振興・共済事業団とご寄付頂きました企業様、関係者の皆様に深く感謝を申し上げます。

また、本研究へのご協力をご快諾頂きました研究協力施設の看護部長様、調査協力やご助言等を頂きましたICUでご勤務されている看護師様方、誠にありがとうございました。新型コロナウイルス感染症の影響で多忙を極められている臨床現場の方々から多くのご協力を頂きましたことに厚く御礼を申し上げます。

本研究の成果は、ICUの早期リハビリテーションの促進のみに留まらず、人工呼吸器やECMOなどの高度な専門知識を必要とする医療機器を装着した重症患者に対する治療、援助を多職種でICUにて実施する上での、教育支援システムとしての発展性を有すると考えます。高度化する医療現場の中で、常に患者様にとって最善の医療を尽くすためには、臨床現場の現状、ニーズを踏まえた教育支援体制を構築することが急務であります。今後も本助成によって得られた貴重な研究データをもとに、学部教育から卒後教育への架け橋となれるよう日々邁進してまいります。

江藤 幹

大阪経済大学 人間科学部 専任講師

〔研究課題名〕

運動教室の休止が高齢者の身体的・精神的フレイルに及ぼす影響

－運動習慣者を対象とした場合－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

家事や育児など、女性へ求められる社会的役割に奔走する申請者にとっては、研究の時間を確保することや予定を立てることが難しく、新しい課題へチャレンジする勇気を持てずにいました。申請者が学位取得後に進めた研究は、学会発表や卒業研究の指導にとどまり、論文投稿には至りませんでした。この度の採択により、遠ざかりつつあった研究活動に再度着手することができました。今後も挑戦する姿勢を忘れず、研究者の立場から健康支援のアプローチを考えて行きたいと思います。

この度は、数ある応募の中から本研究課題を採択いただき、ありがとうございます。

コロナ禍にあり、さまざまな活動が自粛を強いられる中で、研究について評価していただき、研究活動に対してお力添えいただけたことを、大変ありがたく感じております。

ご支援いただきました日本私立学校振興・共済事業団の関係各位、ならびに奨励金をご寄付いただいた皆様に心より御礼申し上げますとともに、研究成果を還元できるよう研究活動に邁進していく所存です。

安井 由香

大阪歯科大学 歯学部 助教

〔研究課題名〕

アイトラッカーを用いた食品の嗜好評価

－ 食事摂取量と視線との関連 －

寄付者の皆様へ〔御礼〕

アイトラッカーは非常に簡便で誰でも使用可能であり、装置も小型なことから、今後の臨床に十分使用可能と考えている。現在アイトラッカーを用いた嗜好評価において対象とする被験者について検討し、軽度から中程度の認知症を対象に計測および測定し、同様の結果が得られつつある。しかし2021年度は COVID-19の影響で、データの収集が想定よりも遅れており、まずは本研究の完遂を急ぎ進める所存である。

今後、さらなるアイトラッキング測定可能な対象者の拡大を目指していきたい。

本研究により、客観的方法で意志疎通が困難な要支援・要介護である軽度認知症患者においても嗜好と視線に関連があることを示しました。

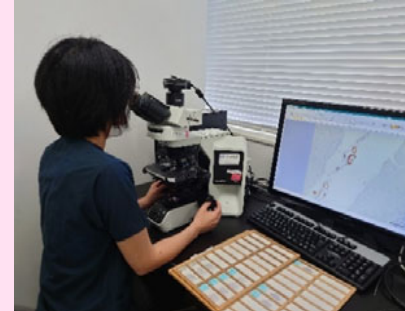
本研究に際し、貴重な奨励金の助力をいただけたことに感謝いたします。この研究成果がリハビリテーション内容や食品の提供方法の工夫への手助けとなるように今後も調査を継続していきたいと思っております。

村上 綾

関西医科大学 脳神経内科 病院助教

〔研究課題名〕

脳アミロイドアンギオパチーにおけるNRG1シグナルの解析



寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は、2021年度 女性研究者奨励金に採択いただき、大変光栄であるとともに、支援いただきました皆様には厚く御礼申し上げます。

脳アミロイドアンギオパチーは罹患率の高さにも関わらず、治療法のない疾患の一つです。今回の受賞をきっかけにCAAの病態解明と血管内皮保護シグナルとの関連を解明することで、新規治療法の開発を目指したいと思っております。

今後も、より一層研究に邁進して参りたいと存じます。

破魔 幸枝

神戸常盤大学短期大学部 講師

〔研究課題名〕

医療系大学生のキャリアコンピテンシーに関連する支援の検討
－進路意思決定と母子の信頼感や自己肯定意識の影響について－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

このたびは、本研究を採択くださり、心より感謝申し上げます。

この研究は、文化の違いもあり、キャリア選択のプロセスの研究が多い日本は最終的な職業選択の意思決定に繋がりにくいと感じていました。海外ではキャリアコンピテンシーに関する研究がとても進んでいます。本研究は量的研究より職業選択の困難さへの影響を検討しましたが、大学4年間の成長発達の変化に注視しました。個々の変化を検討するためには、質的研究を含めた分析の必要性を改めて痛感することができました。継続して研究をおこなうことで、さらなる学生支援に貢献できる結果を導きたいと考えています。

高橋 広奈

岡山理科大学 理学部 化学科 講師

〔研究課題名〕

共鳴IR法による蛍光タンパク質発色団部位の選択的赤外分光計測

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究により得られた発色団分子構造の吸収・発光特性への影響をデータベース化することで、将来的にはタンパク質-タンパク質間相互作用の研究等に適した新規蛍光タンパク質の開発の指針や、その評価法を提供していきたいと考えている。

本研究内容をThe 2021 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (2021年12月)をはじめとする3件の学会発表を行うなどの成果を上げることができました。今後の研究推進の基となる、いくつかの興味深い測定結果も得られており、今後の研究へのモチベーションが更に高まっております。

ご支援くださいました日本私立学校振興・共済事業団の皆様ならびにご寄付をいただいた関係者の方々に、感謝申し上げます。

山田 貴子

安田女子大学 公共経営学科 講師

〔研究課題名〕

大学生の自尊感情と就業用文章の産出困難感との関連
－書く力と自尊感情を高める教育プログラムの開発－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究にご支援をいただき誠にありがとうございました。

コロナ禍ではありましたが、奨励金のお陰で研究環境を無事に整え、目的を遂行することができました。改めて御礼申し上げます。

本研究では、文章産出困難感を低減できるものとして〈ピア指向性〉の重要性が確認できました。この知見をもとに、安心して自己開示ができる学習環境を整え、大学生だけでなく、初等中等教育にも応用できる汎用性の高い自己分析アプローチの実践プログラムを開発していくことで、日本の若者の自尊感情と「書く力」の向上に寄与していきたいと考えています。

中野 美奈

福山大学 人間文化学部 講師

〔研究課題名〕

対人関係カウンセリングと認知行動療法に基づく職場研修の開発
－対人スキル向上を目指した新しいメンタルヘルス研修の形－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究は、認知行動療法（アサーションを含む）と対人関係カウンセリングに基づいたものです。今後は、マインドフルネスをベースにした研修に発展させていきたいと考えています。マインドフルなコミュニケーションは、本研究に取り入れた対人関係カウンセリングや対人関係療法と共通するアプローチが多く、研修で扱う際にも、組み合わせの相性が良いと思っています。

働く上で職場の人間関係が原因でメンタルヘルスが不調になってしまった人へのアプローチは非常に大切です。それと同じくらい、現在健康で、元気に働いている人に対しても、対人ストレスや対人コミュニケーションについての介入が非常に大切だと考えます。

この度は、女性研究者奨励金をいただきまして、心よりお礼申し上げます。本奨励金によりSPSSの統計ソフトや専門書籍を購入でき、非常にありがたかったです。

今後も、研究活動、社会連携・地域貢献活動に尽力し、働く人のこころの健康に貢献できれば幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

豊嶋 明子

福岡国際医療福祉大学 言語聴覚専攻科 助教

〔研究課題名〕

言語療法におけるテレプラクティスの実現可能性

－こどもの言葉をテレプラクティスで引き出せるのか－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度、ご支援いただき深謝申し上げます。

テレプラクティスの基礎的資料として本研究を位置づけ、今後の言語聴覚療法の発展に活かせる研究ができたと考えております。コロナ禍という経験したことのない負担を親も子も強いられた中、教育や必要な支援を止めずに、健やかに成長を促すために、研究者として何が寄与できるか考え、決意を新たにする機会となりました。今後もテレプラクティスに関する研究を継続していきたいと考えております。

本研究にご支援をいただきました皆さま、また遂行のサポートをくださいました日本私立学校振興・共済事業団の皆さまに深く感謝申し上げます。

城戸 佐智子

宮崎国際大学 教育学部 講師

〔研究課題名〕

幼児の運動能力向上に関する研究

－ 幼児期運動指針の認知度に着目して－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

今回、アンケート調査を行ったことで、回答数は多くはなかったものの、幼児期運動指針の存在を保育現場に知らせるきっかけとなったのではないかと思います。実際に、幼児期運動指針のガイドブックを取り寄せた園もあったと報告を受けました。また、保育現場での運動状況や運動に対する課題も知ることができ、今後の研究に繋がるデータを集めることができました。現在、前年度から引き続き器具を使って、新たなデータを取っているところです。子どもの運動能力・体力低下は長年懸念されている事柄であり、特に近年は新型コロナウイルス感染が流行し、さらに低下が危惧されています。そのような中で、自身の研究が少しでも子どもの運動能力・体力向上に繋がることを願っています。

本研究を遂行するにあたりご支援いただきました皆様に、心より御礼申し上げます。